

授 業 科目名	【 G 】	特殊講義(特別刑法Ⅰ)	区 分		開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	専門講義(特別刑法Ⅰ)	選 択			【 H 】 2		【 H 】 2
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	現代社会を刑罰法規の観点から捉える					担当者	百合草 浩治	
授業概要	【概要】	刑事実体法のなかで、刑法典に規定されているものを除いた、現代社会において重要と思われる刑罰法規を取り上げる。Ⅰでは、いわゆる経済刑法を除いた種々の分野を扱う。(原則として、「情報法Ⅰ」で扱う分野は、本講義では取り上げない。)なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。本講義では、教科書を使用しない(指定すべき適切な教科書がない)ので、各自、特に講義に集中してもらったうえで、復習に力を入れてもらいたい。なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。						
	【到達目標】	それぞれの刑罰法規の意義、立法の経緯、周辺事情、そして問題点がどこにあるのかを理解することができるようになること。知識の習得だけでなく、自ら学び、考える姿勢を身につけることを目標とする。						
履修条件	特になし。ただし、第1回目の講義には必ず出席すること。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ (当てはまらない)					
他科目との 関連性	【刑事法関係の開講科目】刑法概論を受講のうえ、刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ、刑法(各論)Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱを受講されたい。ただし、その順序は問わない。ほかに、情報法Ⅰ、特殊講義(特別刑法Ⅱ)、特殊講義(刑事政策)と講義内容において密接に関係する。							
教科書	特に指定しない							
参考書	犯罪白書、警察白書、川出敏裕ほか『刑事政策』成文堂、大谷實『刑事政策講義』弘文堂、安富潔『特別刑法入門』慶応義塾大学出版会、甲斐克則(編)『現代社会と刑法を考える』法律文化社、高橋則夫ほか(編)『判例特別刑法』日本評論社 ※第1集～、内田博文ほか(編)『市民と刑事法』日本評論社、守山正ほか(編)『ビギナーズ犯罪法』成文堂、守山正ほか(編)『ビギナーズ刑事政策』成文堂、河村博『実務家のための刑法概説』実務法規など【それぞれ、最新の版】。							
評価方法	小テスト[複数回実施]の合計点で評価する。							
フィードバック 方法	①小テスト実施後に、全体的な状況についての「講評」を公開する。							
評価基準	原則として、全15回の講義において、少なくとも10回以上の「出席」を単位認定の前提とする。上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。小テストを全く受けていないなど評価不能な場合には「F」とする。							

授 業 科目名	【 G 】	特殊講義（特別刑法Ⅰ）	区 分	開講年次	【 G 】 2	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	専門講義（特別刑法Ⅰ）	選 択		【 H 】 2		【 H 】 2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス、イントロダクション：講義全体を通じて、何を学ぶのかについて説明する。						
	予 習： 井田良『基礎から学ぶ刑事法』を再読する。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
2	軽犯罪法、屋外広告物条例、動物等の保護に関する法規制						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
3	組織犯罪処罰法、破壊活動防止法						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
4	入管法、外国人登録法、爆発物取締罰則、盗犯等防止法、銃刀法、ピッキング防止法、決闘ニ関スル件、暴力団追放条例、人身保護法、人質強要罪						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
5	薬物犯罪関連						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
6	精神障害(者)と犯罪						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
7	児童虐待防止法、児童福祉法、DV防止法、高齢者虐待防止法、ストーカー規制法						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
8	交通犯罪関連：道路交通法など						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
9	医事刑法① 医師法など						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
10	医事刑法② 生命倫理に関連する法：臓器移植法、クローン技術規制法など						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
11	風俗犯罪・性犯罪関連：風営法、青少年保護育成条例、迷惑行為防止条例、児童ポルノ・児童買春処罰法、売春防止法、墓埋法など						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
12	公務員犯罪関連、司法に関する犯罪、選挙犯罪関連、労働法関連、弁護士法、ヘイトスピーチに対する法規制、食品衛生法など						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
13	環境刑法① 総論：歴史的な観点から(公害罪法など)、行政規制と刑事規制の関係						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
14	環境刑法② 各論：現在の法規制の状況と今後の行方						
	予 習： 配布資料を読む。		復 習： 講義内容の確認。配布資料を再読する。				
15	最後の小テスト、全体のまとめ						
	予 習： 授業ノートの確認。		復 習： 授業ノートの確認。				
その他	教科書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。【受講上の注意】正当な理由のない、遅刻および途中退室後の再入室は認めない。私語、携帯電話の使用は禁止する。その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。 授業ごとの予習・復習時間は、各90分程度を目安としてください。						